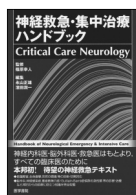


神経救急・集中治療ハンドブック

Critical Care Neurology



監修：篠原 幸人

編集：永山 正雄，濱田 潤一

A 5 頁 496 2006 年

定価 5,775 円(本体 5,500 円+税 5%)

[ISBN 978-4-260-00132-8]医学書院刊

『神経救急・集中治療ハンドブック』が医学書院から出版された。本書の監修は、多年にわたり神経学の基礎的研究に従事され、幅広い臨床能力を有し、数多くの神経学の教科書を書かれてきた元東海大学医学部の神経学教授で、現在、国家公務員共済総合連合会立川病院長の篠原幸人先生である。

米国やドイツには救急・集中治療室の患者のなかで、頻度が高く、予後不良な神経疾患患者に絞って診断と治療上の指針を書いたテキストはあるが、日本には、神経学の臨床能力に必ずしも通じない救命救急センターの医師やコメディカルのために、また救急医療を扱う脳外科医や一般内科医または開業医のために、特に神経学の専門知識の下にケアが行えるテキストは残念ながら今日まで出版されなかった。

そこで、神経学の臨床を米国で学ばれ、また日本でその方面の指導をされている神経学専門医の永山正雄博士と濱田潤一博士が篠原幸人院長を助けて、ここに『神経救急・集中治療ハンドブック』を出版されることになったのである。

米国のメイヨー・クリニックにはすでに1958年にneuro-ICUの原型が開設され、その後、神経救急の立派なテキストも出版されているが、日本は臨床神経学の導入が欧米に比べて遅れ、日本語でこの方面のハンドブックが出版されないままであったのである。

今般出版された本書は、真の神経専門医の65名が協力して書き上げたものだけに、今までの救命・救急療法のテキストに比べるとまさに日本のメイヨー・クリニック版ともいえるものといえよう。

第1章では「なぜ、今Critical Care Neurologyか」が篠原、永山両専門医によって書かれ、本書の特長が何かははっきり示されている。

次いで第2章では「重症神経症候とその管理」について急性意識障害や頭痛、めまい、筋力低下、全身痙攣、精神症候、脳圧亢進などが取り上げられ、第3章では、「重症神経疾患とその管理」と称して、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、代謝・栄養障害に伴う脳症、脳炎、髄膜炎ほかギランバレー症候群、重症筋無力症、その他のニューロパチーやミオパチー、パーキンソン病、脱髄疾患、急性中毒性神経疾患、医源性神経系合併症などが取り扱われている。また、薬剤や放射線神経系障害などが取り上げられている。

第4章には「全身合併症とその管理」の下に1章が組まれている。

これらは、医療の知識の欠如やものを見抜く力が不足している者に、いろいろな神経疾患とその管理の方向が述べられている。

第5章は重症神経症候として症候のモニターの役割や髄液、画像検査のアプローチの仕方、リハビリテーション、SCUの運営、その他集中治療に必要な設備やソフトウェア、脳死の判定などが述べられている。

重要な神経疾患の救急・集中治療の実際がそれぞれの専門家によりこのように具体的に取り扱われているテキストは他にないと思う。

その意味で、本書は日本の各種の疾患や症候群の症例を正しく理解し、適切な治療を行ううえで、他に例のない実践医学の書と行うことができよう。各方面の医師や看護師また医療に従事する職員、学生に活用されることを望んでやまない。